

事務事業評価

平成 24 年度

担当グループ 福祉保健総務グループ

基本事項	事務事業名	病院群輪番制病院運営事業				整理番号	9	
	根拠法令等	事務局当番市の補助金交付要綱				実施を義務付ける規定	○ あり◎ なし	
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第8章 健康で生きがいある生活を支える	▼	▼	▼	▼	▼	▼
		▼	▼	▼	▼	▼	▼	
		▼	▼	▼	▼	▼	▼	
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	市民が安心して日常生活を過ごすため、終日受け入れ可能な救急医療体制の整備を図る必要がある。				計画期間	始期	昭和 53 年から
						終期	平成 年まで	
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	休日及び夜間における重篤な救急患者の受入ができる二次救急医療体制を確立し、市民の健康を守る。						
	目的達成のための手段・方法	重篤な救急患者に対応する第二次救急医療について、島原市、雲仙市、南島原市を一つの単位とする第二次医療圏において、その受け入れを病院群輪番制により365日体制で実施している医療機関(島原病院を除く5医療機関)に対して、半島三市が共同で補助金を支出。(三市の負担は均等割:人口割=5:5で算出)						
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名 称 等 ( 内 容 )		単位	22 年度	23 年度	24 年度	
		①本事業は、一次救急では治療が困難な二次救急患者(重症患者)に対して適切な治療を施す受動的な事業であり、その年の病気の流行により患者数が大きく変わることなど予測が難しことから成果指標の設定は困難。		目標	未設定	未設定	未設定	
活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	①夜間・休日当番実施回数		目標	回	653	656	665	
	②		実績	回	653	656		
事業費等の推移	年度		20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画
	① 直接事業費(千円)		5,085	5,108	5,067	5,085	5,150	5,150
	財源内訳	国県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源	5,085	5,108	5,067	5,085	5,150	5,150
	② 従事職員給与費 b1×b2		715	716	287	289	291	0
	従事職員数(人) b1		0.10	0.10	0.04	0.04	0.04	0.04
	職員平均人件費 b2		7,153	7,162	7,168	7,236	7,277	
事業費合計 ① + ②		5,800	5,824	5,354	5,374	5,441	5,150	

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的 妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった 休日・夜間の救急患者受け入れ体制の整備は、安心して生活していくうえで不可欠	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に任せることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である 収益性の低い事業であり、行政として一定の支援が必要	A
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図られないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 D=適切でははい 半島内三市及び6病院が連携して実施している。	A
有効 性	④事業の実施により初期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 半島内三市及び6病院が連携して実施することにより、二次救急医療体制の確立ができています。	A
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要 この事業は、一次救急では対応が困難な二次救急患者(重症患者)に対して適切な治療を施す受動的な事業であり見直しは困難。	A
効 率 性	⑥活動量や成果を下げずにコストを削減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 休日・夜間の二次救急救急患者受け入れという受動的な事業であり、収益性の低い事業であるため、コストの削減等は困難。	A
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要 休日・夜間における二次救急患者(重症患者)に対して適切な治療をおこなうための事業であり他に効果的な代替手段がない。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 半島内三市及び6病院が連携して実施することにより、二次救急医療体制の確立ができています。	A
公平 性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 輪番制により、休日・夜間の救急患者受け入れが行われており、患者は医療保険制度で定められた医療費の自己負担を行っている。	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
判定評点平均 A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			3.00

◎ 総合評価		判断理由
評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	
今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) 専門医の不足などにより、輪番群病院では受入が難しいものもあるため、輪番群病院の診療体制の充実が課題となっている。	
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。		

【2次評価】

総合判定	A 継続実施(特段の見直しは行わない)
備考	

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費削減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減 (千円)
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの削減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	